

【演劇】無人劇場（旗揚げ公演）「奴隷入門」観てきました

2016年09月30日

早過ぎた一番乗り。

というより開演一時間半前では、まさに無人劇場でした。今シフトを作る際、前もってお誘いをいただいていたからこそその半ドン設定で、余裕で到着。とはいえ開演の19時半までには時間があり過ぎて、昨日は久しぶりに蒲田にも寄りました。



両国なんて、何十年ぶりかなあ、と。駅を降りたのは初めてかも。前はたぶんクルマ。勘亭流で駅名を掲げるところは此処くらいなものじゃないでしょうか。実際の相撲の番付は勘亭流ではないんですけどね。ヘラの釣り番付は勘亭流を採用しているところが多く、自分には自然に感じられましたが、このへんの混同というか取り違えの歴史は、調べてみると面白いかもと思えました。両者とも江戸文字と括られる書体ですしね。



高校時代の友人が主宰する○○劇場、という名の劇団の旗揚げに立ち会うのは、今回で二度目。花束も無しの手ブラですけどね。

今回は難解過ぎるヤツじゃなくて、無学な自分でも何とか楽しめました。

<https://www.facebook.com/events/1015752755207895/?ti=ia>

明日10/1までやってます。是非！



ホールは予想していたとおりの佇まいでした。雑居ビルの一階で、注意して来なければ通り過ぎてしまう感じ。駅から離れた隅田川沿いの、マンションや雑居ビルが立ち並ぶエリア。いや、川はパッと見て視界に入って来ないため、6号向島線沿い、と言った方が良いかもしれないです。開演直前、ビル二階のオフィスにはまだ灯りがあり、カーテンの無い窓は開いていて、窓際にはキャビネットがあるのか、電気ポットやユニマットのコーヒーマシンなんかが無造作に置いてありました。オシャレなオフィスではないフツウの日常と同居する、非・日常。こういう対比がいつも面白いですね。いかにもな施設が建ち並ぶエリアに、当然のように存在するランドマークで演じることが出来るのは、ほんのひと握りであって、



華やかな世界、では決して無いワケです。スタッフや役者の皆さんにとっては間違いなく晴れ舞台ですが、食っていくことは難しい。だって、慌てて座席を増やすほどの超満員であっても、数え切れるほどの座席数。そこにチケット代を掛けて導き出される収入に対し、素人イメージでそれなりの諸経費を支出したら、ハッキリ言って絶望的な気分です。信念がなきゃ出来ません。一発逆転なんて色気はアラフィフの友人にはまさか無く、様々な活動の中の一環だと思いますが、くだらない中傷もあったりするんでしょう。僕には言わないけれども。

夢を追いかける者を笑うのは簡単。でも、追いかけることは難しい。だからとりあえず僕は、軽はずみに他人の夢は笑わないようにせねば、と思ってます。同じ土俵に立っての論戦は結構。内容に対する批判も賛同も大いにやれば良い。でも、夢見る行為(=自己肯定、オナニー)自体を否定したら、否定した側も存在意義を失うリスクがありますからね。そこのジャッジが可能なのは、本来神様だけ。だから、慎重にならねば、と。僕なんかは結構言いたい放題な方ですが、なるべく個人攻撃にはならないようにしたいな、と思ってます。組織と個の意思とは別ですから、もし特定の企業や団体を批判したとしても、そこに属する個人の人格否定にはなりません。逃げ場が残ります。お互いに。

他人のアイデンティティをちっぽけだと笑う奴が、一番ちっぽけなんじゃないのかな、と思えますね。自戒も込めて。笑うのと逆で全部許すよってのも、恋愛初期の二人ならまだ理解出来ますが、ちょっとアヤシイ臭いがします。なので、カウンセラーとか大変な職業だなど、僕は思いますよ。本来であれば他人には引けない筈の線を引き、神様を演じなければいけないんですから。そしてさ

らに、演じているのか、ソノ気になってしまっているのかは、本人には判断出来ないというオマケがもれなく付いてきます。怪物と戦う者は自らが怪物にならぬようナントかって名言がありますが、「自分は大丈夫」って思ってる輩が一番危険なんだろうってことですね。

※どうでも良いけど、怪物と戦う者～は、ミイラ取りがミイラに～って話と似ているようできて、主体性という部分で違うかな。前者は最後まで敵対してるんで互いに怪物でしかないし、自らの意思で存在しています（自らを怪物ではない、と思っていたとしても）。後者は相手に取り込まれちゃってるんでね。

誰もが自分が可愛いです。そして、綺麗事言っただって、この世は弱肉強食なのは明らか。カーストの最上位を目指さなければ、自分がやられます。勝ち組vs負け組という構図も切り取った瞬間的なものでしかなく、明日は逆転しているか、両者共に負け組になっているかもしれないし。どうしても克服し得ない弱点を突くのはアンフェアだ、と言って弱者を守ろうとしたヒーローが、権力に潰されそうになっても見て見ぬフリをするのが世の常。なので、バランスでしょうね。敗れば全ては自己責任とされ、勝者に切り捨てられるのは、実は今日の勝者として同じことです。明日は誰にもわかりません。

承認欲求と承認欲求のぶつかり合い。自己肯定（=オナニー）無しに人は生きられない。主義も思想もぶつかり合うのは結局そんなんだな、と。自己否定に支配されれば、死です。どう考えても個に意味なんか無いんだらうから、自我なんてのは後付けのストーリー。歴史に名を残した人たちも結果論に過ぎないと思います。伝説の構築中、他人に必要とされているんだと自己肯定し切れた、と。運良くね。歴史上の人物が理想郷を目指す過程で、多少の犠牲は必要だったかもしれません。それが我欲だったのか志のためだったのか、判断するのは神様じゃなければ歴史しかないでしょう。さっきの怪物なんたら～って話はこのタイミングで引用するのが正しいと思いますが、悩みなながらも取捨選択して行った結果、怪物になってしまったのか否かをジャッジするのは後世の人達ということであり、取捨選択もしない人は怪物にはならない代わりに英雄にもなれないってことです。ただ問題なのは、本当に取捨選択をしない人なんが居るのか、というところですよ。実は何も無いというののひとつの選択であって、流れに身を任せた結果、気付いたら怪物側に身を置いていた、なんてこともあるでしょう。そうならないための積極的な選択が、結果として自分を追い込むことになろうとも、後悔は少ないんじゃないのかな、と。

公のために命を投げ出す覚悟というの、真質を見極めるのは難しい作業です。人間は弱い。酔えばいつも会社を変えてやると言いながら、実際に出世して変えた人は少ないように、初期の志は嘘ではなくても心折れる要因は沢山あります。仲間のために、なんて正義感にかられ、実際にアクションを起こして梯子を外され、組織を追われちゃったりすれば、その後の人格に影を落とすでしょうね。イジメなんかこの構図でしょ。見て見ぬフリが出来ずについに声を上げたが、元からイジメられてた子と一緒に地獄行き。コレは辛いわ。

ま、ネタバレになったのかそうじゃないのかも含め、何だかよくわからない話になってしまいましたが、何のために生きてんの？ってのは人間に与えられた究極のパズルであり、誰も答えなんか持っていないだっとなことを再認識させられたお芝居でした。結局はここに落ち着くんだったら、小難しい本をせっせと読まなくて良かったな、高卒で充分だったなと思え、コンプレックスが軽くなったりね。やっぱり自分は小せえなど笑えるのでした。でもね、ラッキーなことに目先の快樂には事欠かないんですわ。本能を満たす、魚釣りなんつー趣味を持って、ほんとラッキーだったと思いますね。出来るものなら、毎日釣りしてたいもん。僕はそれだけで生きられます。

